

ノーサイド

北原 巖 男

パンでは、「片耳」を「両耳」に読み替えたに違いありません。兎のような小さな動物のみならず、人間も命の危険を感じるほどの暑さです。

「防衛ホーム」の読者の皆さん、仲間の皆さん、ご家族の皆さんには、くれぐれも熱中症に気を付けてください！

ところで、どんなに暑い中でも、どんなに厳しい環境下でも、片時も「両耳」は勿論、「片耳」として垂らすことの無い、長い兎の耳集団がいます。

日本の平和と安全を守るため、今この時間も24時間体制で取り組んでいる防衛省・自衛隊、警察、外務省、内閣官房をはじめとする日本の情報収集・分析・報告態勢です。

各情報機関等の皆さん

は、常にその長い兎の両耳をピンと立てて黙々と任務遂行に取り組んでいます。首相を筆頭とする政策決定者等に、正しい決断を出来るための各種判断材料等を、時機を失することなく、適宜適切に提供するべく全力で努めているのです。

緊張が続く我が国周辺の

動向や中東情勢等、兎の長い耳の果たす役割は、猛烈な暑さの中で益々重要になっていきます。頑張っていた

だいたいと思います。こうした中、8月6日の

を訴える様々な展示会や集

会等が行われました。僕は、「みなとパーク芝浦」で開催された「平和展」で過去から学び、令和につながる平和の輪」を見学しました。

その中に、広島で被爆された当時12歳の方が、1986年に実名で語った言葉がありました。

「結婚適齢期に、白血病、

私たちが被ばくした女性は、不当に結婚差別を受けました」

偏見などの社会的なハンデ

「イも被爆者を苦しめます」との説明がありました。被害者が差別を受ける現実。僕の近所のご夫人も広島で被爆された一人です。当時小学6年生。病院だった自宅には、医師の父を頼って幽鬼のような姿になった人々が押し寄せました。父は軍医として出征中で不在。医師だった祖父を中心に被爆した彼女を含め家族総出で手当てに取り組んだ

そうです。まさに地獄絵。そんなご夫人は、今も原爆の語り部として、次代を担う若者たちに平和の尊さを訴え続けています。

また、やはり近所の方で広島出身の戦争体験世代の方がいます。昨年大学を卒業したばかりの孫娘は一人っ子。ご両親がとても心配

「健康への不安だけでなく、

される中、今年4月から青

夏。あの頃そして今

年海外協力隊員(JOCV)今あるこの命や平和が決して当たり前ではないこと、人間は戦争をする為

にこの世に生まれて来たのではないこと、誰でも安穩で平和で！心豊かな人生！を望み、そしてみんなで生きる喜びを深く味わうことだ」

おじいちゃんのメッセージを参考にしつつ、遥か彼方の地の皆さんに、自分の考えを自分の言葉で一生涯命語っている日本の若者の姿が浮かんで来ます。

「今、強く思うことは、

理事

北原 巖男 (きたはらいわお)

元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現(一社)日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会

元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現(一社)日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会

元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現(一社)日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会

元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現(一社)日本東ティモール協会会長。(公社)隊友会